京都市内遺跡分布調査報告

平成19年度

2008年３月

京　都　市　文　化　市　民　局

ご　あ　い　さ　つ

今から１２００年以上前の桓武天皇の治世に「この国，山河襟帯にして自然に城をなす」といわれ，三方をたおやかな峰々に囲まれた京都盆地の中央に，新しい国の首都が遷都され「平安京」と号されました。京都では，それ以後，わが国の政治・文化・経済・宗教などの中心舞台として様々な歴史が展開されてきました。また，市域内の周辺部においては，遷都以前の旧石器時代を含む，縄文時代，弥生時代，古墳時代などの遺跡も数多く，京都盆地が早くから拓かれ，多くの人々が脈々と生活を営んできたことを物語っております。

これら古代から近世まで時代ごとに積み重なった埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が，市内では約８００件に及び，それらは，わが国の歴史や文化を直接我々に教えてくれる国民共有の財産であります。

本市では，先人が残した貴重な埋蔵文化財を後世に伝える責務を果たすべく，「保存」と「開発」の調和を図りながら，埋蔵文化財の保存と保護に取り組んでおります。

この度，平成１９年度に本市が文化庁の国庫補助を得て実施した埋蔵文化財調査成果をまとめた報告書を作成致しました。この報告書が京都の歴史と文化財への理解を深めるために，広く御活用いただければ幸いに存じます。

結びに，各調査の実施に当たり，御理解，御協力を賜りました市民の皆様と，御指導を賜りました関係機関の皆様に深く御礼申し上げます。

平成２０年３月

文化市民局長　　山　岸　吉　和

例　言

1　本書は、京都市文化市民局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託して実施した文化庁国庫補助事業による平成19年の京都市内遺跡分布調査報告である。

2　本分布調査は、国土交通省近畿地方整備局の計画する京都第二外環状道路予定地内において、未周知の埋蔵文化財包蔵地の有無を確認する目的で、工事実施前に行なった。なお、当該計画については、平成６年２月以降、京都市埋蔵文化財調査センター（平成18年からは京都市文化財保護課）と建設省（現国土交通省）近畿地方整備局が断続的に協議を重ねてきた結果、地元調整を近畿地方整備局が行ない、平成18年度に計画予定地に入ることが許された。

3　調査地は、京都市西京区大枝・沓掛から大原野灰方町にまたがる京都第二外環状道路予定地である。

4　本書に使用した写真の撮影は、現場写真は担当者、遺物写真は村井伸也・幸明綾子が行った。

5　遺跡番号は京都市文化市民局作成「京都市遺跡地図　平成15年３月」の番号に準拠した。

6　本書で使用した地図は、京都府作成の「京都府管内図」（縮尺１：150,000）、京都市発行の都市計画基本図「沓掛」「岡新田」「粟生」「大原野」「小塩」「石見」（縮尺１：2,500）である。

7　本書の執筆は、津々池惣一・加納敬二が行った。

8　本書の編集は、柏田有香・児玉光世・吉本健吾が行った。

9　調査にあたっては、以下の方々からご教授とご協力を得た。
勝持寺住職　中村真容氏、大原野神社祢宜　斉藤重介氏

目　次

１．調査の経過と方法 …… 1
　（１）調査の経過 …… 1
　（２）調査の方法 …… 1
２．立地と遺跡 …… 2
　（１）位置と地形 …… 2
　（２）遺跡の概要 …… 2
３．資　　料 …… 5
４．遺　　物 …… 7
５．ま と め …… 9
報告書抄録 …… 13

図 版 目 次

図版１　遺構・遺物　１　調査地遠景（南西から）
　　２　遺物
図版２　参考資料　絵図１　勝持寺境内図１（寛永元年）
図版３　参考資料　勝持寺子院推定位置図（１：2,500）
図版４　参考資料　絵図２　勝持寺境内図２（時期不明）
図版５　参考資料　絵図３　大原野神社絵図（宝暦十三年）

挿 図 目 次

図１　調査地遠景（西から） …… 1
図２　調査風景 …… 1
図３　調査位置図（１：20,000） …… 3
図４　遺物実測図及び拓影（１：４、銭貨のみ１：２） …… 8
図５　五輪塔（７） …… 8
図６　採取地点１及び資料１位置図（１：5,000） …… 10
図７　採取地点２及び資料２～７位置図（１：5,000） …… 11
図８　採取地点３～８及び資料８・９位置図（１：5,000） …… 12

表　目　次

表１　道路予定地周辺の遺跡一覧表 …… 4
表２　資料一覧表 …… 5
表３　遺物一覧表 …… 7

大原野・大枝地域の遺跡分布調査

1．調査の経過と方法

（1）調査の経過

調査は京都第二外環状道路事業に伴い、事業地および隣接地での遺跡の有無を確認するための分布調査である。対象地は大原野地域を中心として一部、大枝地域を含む広域である。調査は京都市文化市民局文化財保護課から財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受けて2007年２月13日から３月16日の期間で実施した。

大原野地域で調査が本格的に実施されたのは、1982年の圃場整備事業に伴う遺跡確認のための分布調査からである。この調査は大原野全域を対象としたもので、結果、古墳・窯跡・遺物散布地など数多くの遺跡を新たに発見した[1)]。分布調査の成果に基づき、1983年からは試掘調査を実施、1986年以降は発掘調査を実施している。現在までに調査次数は22次を数え、大原野地域の歴史を知る上で不可欠な調査成果が得られている。ただし大枝地域の西長町地区については、これまで分布調査や発掘調査などは行われていなかったため、遺跡は確認されていない。

以上のように、大枝西長町地区を除き、道路事業地周辺では従来の分布、試掘、発掘調査などにより古墳、窯跡、集落、城跡などの遺跡が点在している。今回の分布調査では、そうした状況を踏まえ、新たな遺跡の確認を主眼において実施した。

（2）調査の方法

調査では地下の土層観察が不可能なため、耕作地・竹林・山地などで、表面地形の観察や遺物採取を行い、遺跡の有無と範囲確認に努めた。また、並行して周知遺跡の遺存状況の把握も行った。大原野地域では、1982年から圃場整備に伴う分布・試掘・発掘調査などを実施している。そのため今回の調査は圃場整備が及ばなかった耕作地・竹林・山地などを重点的に実施した。また

図１　調査地遠景（西から）

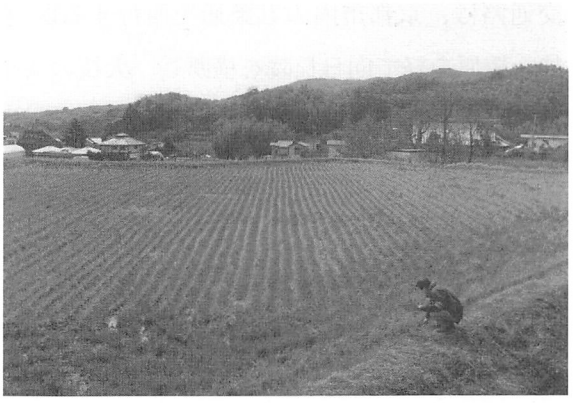


図２　調査風景

地元の方々への聞き取りも行い調査を補完した。また、今回の調査では事業計画区分にしたがい、対象地区を北から大枝沓掛町地区、大枝西長町地区、大原野北・南春日町地区、大原野灰方町地区、大原野小塩・石作町地区の５地区に分けた。

調査にあたっては、道路建設予定地が長く、広域にわたることから、後半は２班に分かれ、新たな遺跡候補地（以下、資料とする）の遺存状況・現状確認・遺物散布状態などの記録作業と現状の写真撮影を行った。

各資料の位置・現状の記録作業は１：2,500地形図（京都市発行の都市計画図）に記入し進めた。遺物の採取地点も同様の方法で行った。ただし、採取地点は各地区の一定範囲内での調査から、複数採取地点の中心的な地点を示し、採取地点１から順に番号を付して図示した。

現場における作業の後、それらの成果を基に資料および遺物カードを作成した。採取した遺物は洗浄後、その内容を遺物台帳に登録した。

２．立地と遺跡

（１）位置と地形

調査地である西京区大原野地域は、京都市の南西部に位置している。大原野地域の西方には丹波高原に連なる小塩山を中心とする、西山山地がそびえている。北には大枝山、東は北西から南東にかけて乙訓丘陵が張り出して盆地状の地形となり、京都市街地と隔てられている。この地域は高所で標高約90m、低所では標高約60mあり、北西から南東へ緩やかに傾斜する地形になっている。中央部には北西から南東に向けて小畑川が流れている。西からは善峰川や社家川などの小河川が小畑川に向かって流れ込んでおり、それらの河川により形成された高・低位の段丘が数多く見られ、現在は棚田や畑あるいは竹林として利用されている。

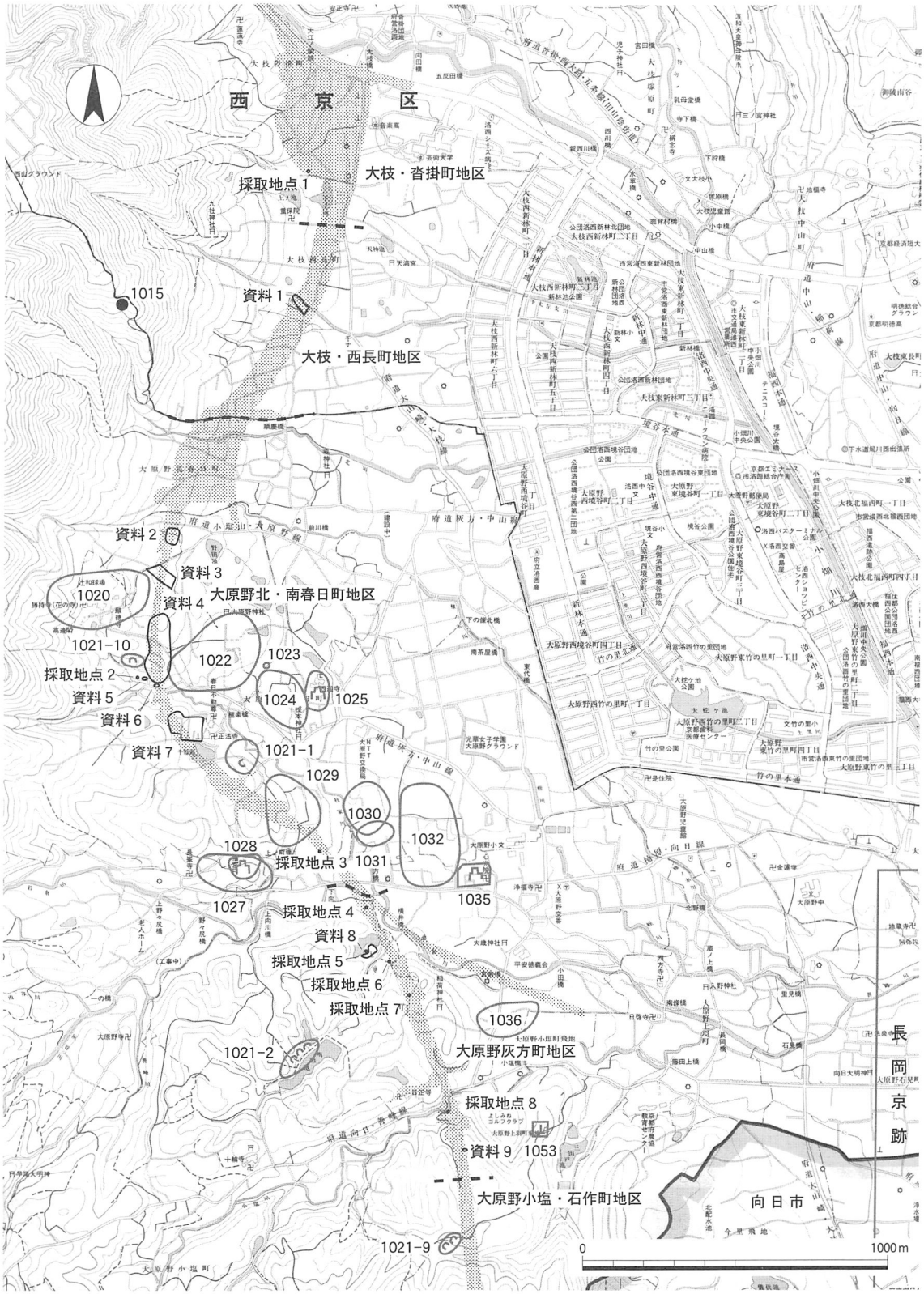
大枝地域は大原野地域の北側に位置し、西から東に延びる標高90mから180mの低い丘陵地帯で、小河川による幾筋もの開析谷がみられる。丘陵では現在、果樹園が営まれている。

大原野・大枝地域は、京都と丹波地方を結ぶ山陰街道に沿って開けた地域である。現在の主要交通路は、京都市内の五条通を西行する国道９号線であるが、旧山陰街道は七条通を西行し、桂・樫原を経て向日丘陵を横断し、大枝の関を通って老ノ坂峠から丹波地方に入る道筋を通っていた。大原野・大枝地域を縦断する旧道である丹波道は、旧山陰街道に取り付いている。

（２）遺跡の概要（図３、表１）

桂川右岸に広がる大原野・大枝地域では、これまでに旧石器時代～中世までの遺跡が92箇所確認されている。ここでは道路建設予定地周辺の歴史的環境を京都市遺跡地図台帳[2)]を基に北から概観しておく。

大枝沓掛町地区　国道９号線の北側に古墳時代の遺跡がみられる。大枝神社境内では円墳１基



遺跡範囲・番号は京都市遺跡地図台帳に準拠した。
道路建設予定地（トーン）は工事計画図に基づいた図である。

図３　調査位置図（１：20,000）

が確認されている大枝神社古墳（遺跡番号983）が立地している。また沓掛古墳群（遺跡番号982）は光仁天皇皇后陵へ至る参道両側に円墳４基が点在する。

大枝西長町地区　遺跡は確認されていない。

大原野北・南春日町地区　旧石器時代から中世の遺跡がみられる。小塩山の東山麓にあたる大原野神社遺跡（遺跡番号1022）は神社境内で旧石器や平安時代の瓦が採取されている。小塩山中腹の標高315mで確認された円墳とみられる大暑山古墳（遺跡番号1015）、また神社東の竹林には横穴式石室の石材が露呈する大原野神社東方古墳（遺跡番号1023）がある。神社西には勝持寺古墳群（遺跡番号1020）があり、勝持寺境内と駐車場や裏山には円墳が点在する。社家川右岸の竹林東斜面には、奈良時代から平安時代の須恵器窯跡である南春日町窯跡（遺跡番号1021-1）がある。窯跡の南東部には1984年調査において奈良時代の竪穴住居跡を検出した南春日町片山遺跡（遺跡番号1029）が立地しており、窯跡と集落との関連で注目される。また、大原野神社の南東部にあたる安岡遺跡（遺跡番号1024）では、1996年調査で室町時代の建物跡が検出され、中世の大原野神社に関わる施設とみられる。その東の丘陵先端に位置する現西迎寺を含む周辺は、大原野野田城跡（遺跡番号1025）に推定されている。

大原野灰方町地区　古墳時代から中世の遺跡が点在する。市道大原野道の両脇に点在する灰方古墳群（遺跡番号1036）は、古墳時代後期の群集墳であるが、現状では破壊が著しい。平成８年度の市道改良工事に伴い、古墳２基の調査を行っている。灰方町の丘陵先端部に位置する八幡宮古墳群（遺跡番号1027）は長峰八幡宮の本殿下に横穴式石室が残存している。また府道袖原・向日線に面して中世の灰方城跡（遺跡番号1035）や長峰城跡（遺跡番号1028）が立地している。

表１　道路予定地周辺の遺跡一覧表

遺跡番号	名　称	種　類	所　在　地	時　代	概　要
1015	大暑山古墳	古墳	大原野北春日町	古墳後期	
1020	勝持寺古墳群	古墳	大原野南春日町	古墳後期	
1021-10	南春日町花寺窯跡	窯跡	大原野南春日町		附近で中世瓦採取
1022	大原野神社遺跡	神社・散布地	大原野南春日町	旧石器・平安	
1023	大原野神社東方古墳	古墳	大原野南春日町	古墳後期	
1024	安岡遺跡	集落跡	大原野南春日町	室町	
1025	大原野野田城跡	山城跡	大原野南春日町	室町	
1021-1	大原野南春日町窯跡	窯跡	大原野南春日町	奈良・平安中期	窯跡北側でも遺物採取
1029	南春日町片山遺跡	集落跡	大原野南春日町	奈良・鎌倉	南側で鎌倉期遺物採取
1027	八幡宮古墳群	古墳	大原野石作町	古墳後期	
1028	長峰城跡	山城跡	大原野（石作町・灰方町）	室町	
1030	南春日町下西代遺跡	集落跡	大原野南春日町	鎌倉	
1031	下西代古墳群	古墳	大原野南春日町	古墳後期	
1032	大戸遺跡	集落跡	大原野（南春日町・灰方町）	平安～室町	
1035	灰方城跡	山城跡	大原野灰方町	室町	
1036	灰方古墳群	古墳	大原野（灰方町・小塩町飛地）	古墳後期	
1021-2	明治池須恵器窯跡群	窯跡	大原野灰方町・石作町山地	平安前期	破壊が著しい
1053	石作経塚	経塚	大原野石作町山地	平安後期	
1021-9	石作窯跡	窯跡	大原野石作町山地	平安中期	

大原野小塩・石作町地区　平安時代の窯跡、経塚がある。石作町から小塩町にかけて広がる丘陵に展開する大原野窯跡群には、平安時代の明治池須恵器窯跡群（遺跡番号1021-2）、緑釉陶器の石作窯跡（遺跡番号1021-9）が分布する。石作町の山地には明治43年（1910）に発掘された平安時代後期の石作経塚（遺跡番号1053）がある。

3．資　　料

今回発見した資料は、合計９基を数える。調査地は竹藪が多く筍生産に利用しているところは、収穫前に毎年土取りと盛土を繰り返しており、元地形をとどめない。また、放棄された竹林は、倒竹により調査に著しく支障をきたし、思うような踏査はできなかった。

以下に、検出した資料についてその概略を述べる。

資料１　宝篋印塔など［墓域］大枝西長町地区（図６）

現代墓地の一角に宝篋印塔が安置されている。宝篋印塔は傘の隅飾りが大きく反り返り、江戸時代中期から後期の特徴を持つ。他に五輪塔が１基ある。近世から墓域が踏襲されてきたと思われる。

資料２　石積施設など［屋敷跡？］大原野北・南春日町地区（図７）

東西約40m、南北約50m以上の平坦地と北側に石積み施設がある。幅は0.8m、現存高は0.3mほどである。西側には、排水溝も見られる。周知の遺跡に大原野野田城跡（遺跡番号1025）がある。東側約100mには野田池があり、野田城との関連も検討する必要がある。

資料３　石段、基壇［安養寺跡］大原野北・南春日町地区（図７、図版２・３）

『山城名跡巡行志　第五』[3]では安養寺は「在春日社西宗旨律　勝持寺四十九院其一也」とあり、現在の地図では推定される跡地は北に対し西に振れ、長辺約140m、短辺約40mの区画が現存する。現在の推定地は３段の平坦面からなり、２段目の平坦面に取り付く石段が残存している。寛永元年（1624）作成の勝持寺所蔵絵図[4]（図版２）では、勝持寺と大原野神社の間を南流する小川より東に安養寺とあり、現状より東西に広がっていたことが窺える。北限・南限は現状に近いと思われる。

表２　資料一覧表

番号	名　称	種　類	所在地	時代	現状	調査日	備　考
1	宝篋印塔など	墓域	大枝西長町	～近世	部分存	2007.2.19	
2	石積施設など	屋敷跡？	大原野北春日町	～近世	部分存	2007.3.2	
3	石段、基壇	安養寺跡	大原野南春日町	～近世	部分存	2007.3.15	勝持寺子院「安養寺」
4	石垣、築地状石積	寺院跡	大原野春日町	～近世	部分存	2007.2.16	勝持寺、正行坊院等跡地か
5	石列	古墳？	大原野南春日町	古墳	部分存	2007.3.6	横穴石室の残存基底部か
6	石積み	古墳?	大原野南春日町	古墳	部分存	2007.3.6	横穴石室の石材を転用か
7	石輪塔等集積地	墓域	大原野南春日町	～近世	部分存	2007.3.13	現代墓地と重複
8	石輪塔等集積地	墓域	大原野灰方町	～近世	部分存	2007.2.15	現代墓地と重複
9	石積施設	経塚？	大原野灰方町	～近世	完存	2007.2.13	石作経塚と類似か

資料４　築地状石積施設など［寺院跡］大原野北・南春日町地区（図７、図版２・３）

現在の勝持寺仁王門を参道沿いに北へ50m付近に、西へ続く石積みの施設と石垣がある。石積み施設は人頭大の石が積まれ、高さ0.3m、幅0.8mで長さ40mほど西に続いている。間をおいてその西側にはさらに12mほど石垣が続く。高さは1.5mほどである。寛永元年（1624）作成の勝持寺所蔵絵図（図版２）から、これらの施設を境に北西側に阿弥陀坊跡、南側平坦面の東側は正行坊跡、西側は本覚坊跡が比定できる（図版３）。また参道の東側も浄瑠璃院跡、霊山坊跡なども描かれている。確認した遺構はこれらに伴う築地や土地造成に関連するものと考えられる。

資料５　石列［古墳？］大原野北・南春日町地区（図７）

料理屋「ぶへい」駐車場の西前の畑地南斜面に、平坦な面を上に５石の石材が並ぶ。東西幅は3.45mある。石は0.38～0.59m幅のもので、古墳の横穴式石室の側石残存部の可能性が考えられる。

資料６　石積み［古墳？］大原野北・南春日町地区（図７）

料理屋「ぶへい」南下の畑地南斜面に、高さ0.8～1.0mの大石が２石積まれ、東側にも高さ約0.5mの中石が２石積まれていた。いずれも、古墳石室の石材と考えられ、転用もしくは、横穴式石室の側石残存部とみられる。

資料７　五輪塔等集積地［墓域］大原野南春日町地区（図７）

現正法寺の西側、寺境内墓地の北西部に五輪塔、宝篋印塔などを集積した箇所がある。東西約80m、南北約100m規模の墓域の一角に、東西約5.0m、南北約3.0mの範囲で集積されている。境内墓地の西側には、ひな壇状に平坦面が数面あり、ここが旧墓地と考えられる。地元では集積地は旧墓地から墓石を移動したとされている。

正法寺は勝持寺の子院であり[5]、現在の正法寺の寺域が当時の寺域内であれば、子院の創建時まで遡る可能性もある。

資料８　五輪塔等集積地［墓域］大原野灰方町地区（図８）

現代墓地の南端に五輪塔、宝篋印塔などが集積されているところがある。集積地自体は東西約５m、南北約２mほどであるが、墓域は南北約70m、東西約20mである。

資料９　石積施設［経塚？］大原野灰方町地区（図８）

山腹傾斜地に立地している。谷側は幅4.0m、高さ0.6mの石垣状の施設で、山側に高さ3.5mほどの半円形の石積みがある。その上に直径3.0m、高さ0.3mの扁平な円錐状に石を積み上げている。

類例としては、尾根を一つ隔てたところに、明治43年調査とされる石作経塚（遺跡番号1053）がある。関連書[6]によると、「南北十八尺東西十五尺」の石槨という既述があり、それより規模は小さい。

4．遺　　物

採取遺物は整理箱１箱ある。全て細片であるが土器類が大半を占め、他に瓦類と石製品、金属製品がある。土器類には土師器、須恵器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、磁器などがある。瓦類は丸瓦、石製品は石器剥片、五輪塔、金属製品には銭貨がある。遺物の時期は石器剥片を除いて平安時代から江戸時代末である。以下、採取地点別に主要な遺物について概述する。

採取地点１　大枝沓掛町地区（図６）

石器剥片、須恵器、灰釉陶器、焼締陶器、磁器がある。石器剥片（６）は両面とも研磨された薄い剥離片である。須恵器は小片であるが、器壁は厚く甕の破片とみられる。灰釉陶器は表面に淡灰色の釉が施された壷の小片と考えられる。焼締陶器には江戸時代中期の堺・明石系とみられる擂鉢の口縁部（４）がある。内面の摺目単位は７本である。また磁器には江戸時代中期の染付小片２片と肥前産白磁の紅皿（１）がある。紅皿は外面型押し成形で内面には白色の釉が施されている。その他に江戸時代後半の瀬戸・美濃系の小皿、と算木文が描かれた三田青磁の角皿縁帯部小片もある。

表３　遺物一覧表

地点	所　在　地	器種・器形	点数	時代	備　　考	掲載番号
1	大枝沓掛町地区	石器剥片	1			図４－６
		須恵器　不明	1	平安		
		灰釉陶器　壷？	1	平安		
		焼締陶器　甕	1	室町	丹波？	
		焼締陶器　瓶	1	室町？		
		焼締陶器　擂鉢	1	江戸	堺・明石系	図４－４
		磁器　不明	1	江戸	18世紀代	
		磁器　不明	1	江戸	18世紀代	
		磁器　紅皿	1	江戸	18世紀末	図４－１
		磁器　小皿	1	江戸	瀬戸・美濃　19世紀中	
		磁器　小皿	1	江戸	三田青磁　19世紀前	
2	大原野北・南春日町地区	瓦	1	室町？	丸瓦	図４－５
3	大原野北・南春日町地区	須恵器　不明	1	平安		
		土師器　皿	2	鎌倉		
		焼締陶器　瓶	1	鎌倉	備前	
		瓦器　椀	1	鎌倉		
4	大原野灰方町地区	須恵器　不明	1	平安	小片	
		焼締陶器　甕	1	中世	常滑	
		磁器　不明	1	江戸	染付　18～19世紀	
5	大原野灰方町地区	石製品	1	中世	五輪塔	図４－７
		磁器　小椀	1	江戸	18世紀以降	図４－３
		施釉陶器　小椀	1	江戸	京・信楽系　19世紀後半	
6	大原野灰方町地区	須恵器　不明	1	平安	小片	
7	大原野灰方町地区	金属製品	1	江戸	鉄銭　寛永通寶	図４－８
8	大原野灰方町地区	施釉陶器　瓶	1	江戸	鉄釉　丹波　19世紀	
		施釉陶器　椀	1	江戸	京・信楽系　19世紀	図４－２

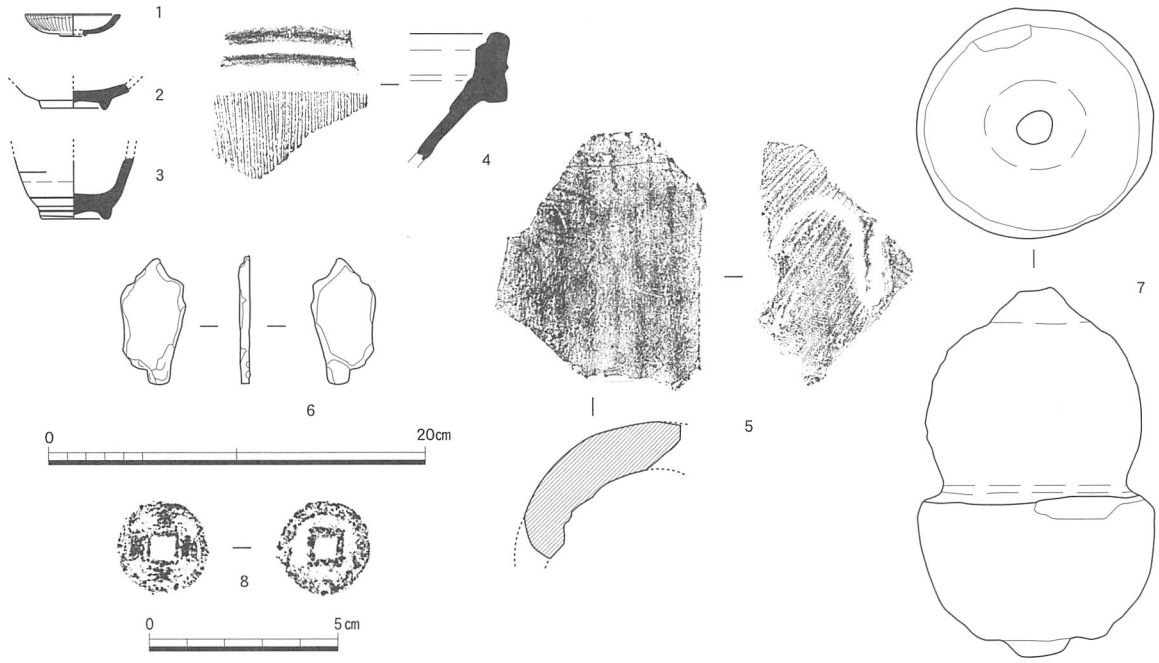


図４　遺物実測図及び拓影（１：４、銭貨のみ１：２）

採取地点２　大原野北・南春日町地区（図７）

丸瓦（５）がある。丸瓦凸面には縄目叩きの痕跡が一部残存する。丸瓦凹面には密な布目と荒い縄目の吊り紐痕跡がみられ、鎌倉時代後期から室町時代前半の特徴がみられる。

採取地点３　大原野北・南春日町地区（図８）

須恵器甕、土師器皿、焼締陶器瓶、瓦器椀がある。須恵器甕は外面に格子目のタタキ痕がみられる。土師器皿は口縁部外面が一段ナデで、鎌倉時代前半の特徴を示す。瓦器椀は内面に粗い暗文を残す。

採取地点４　大原野灰方町地区（図８）

須恵器、焼締陶器、磁器がある。いずれも細片で器形や産地については不明である。

採取地点５　大原野灰方町地区（図８）

石製品、磁器、施釉陶器がある。石製品は花崗岩製とみられる五輪塔の風・空輪部（７）を採取した。高さは約19cmある。風輪部は半球形を呈し、下面には火輪に取り付く組み合わせ突起をもつ。空輪部は宝珠形である。ともに表面の風化が著しい。室町時代以降に造られた供養塔とみられる。磁器は18世紀以降の染付の小椀の底部（３）である。全面に淡白色の釉が施されている。施釉陶器は19世紀後半の京・信楽系小椀である。

図５　五輪塔（７）

採取地点６　大原野灰方町地区（図８）

須恵器がある。細片のため器形については不明である。

採取地点７　大原野灰方町地区（図８）

銭貨がある。銭貨は鉄製の「寛永通寶」（８）である。元文四年（1739）初鋳。全体が錆を著しく受けている。採取地点付近には延宝

五年（1678）銘の稲荷神社の石碑がある。

採取地点８　大原野灰方町（図８）

施釉陶器瓶・椀がある。瓶は丹波産とみられる。椀は京・信楽系の小椀底部（２）である。内・外面に黄白色の釉が施されている。いずれも19世紀代の江戸時代後半である。

５．まとめ

確認した資料については、墓域（３箇所）、屋敷跡？（１箇所）、寺院跡（２箇所）、古墳（２基）経塚（１基）などがある。調査地周辺には、さらに関連する資料が多数存在する可能性がある。

また、遺物採取地点付近では、採取遺物に関連する遺構の存在が想定される。特に採取地点１・３では平安時代の遺物が、また、採取地点３では鎌倉時代の遺物が複数採取されている。採取地点１については、遺跡の空白地である大枝沓掛地区にあたることから遺跡の存在が注目される。また、採取地点３は奈良・鎌倉時代の南春日町片山遺跡（遺跡番号1029）が北に近接しており、当遺跡とのつながりで範囲拡大の可能性も出てきた。

さらに採取地点２では、中世の瓦が採取されている。採取地点２は付近の北側約20mに位置する南春日町花寺窯跡との関連や北方約50m付近に立地していたとされる勝持寺子院阿弥陀坊跡正行坊院、本覚坊院との関連が窺える。

註

１）（財）京都市埋蔵文化財研究所編『京都市内遺跡試掘、立会調査概報』昭和56年度　京都市文化観光局　1982年

２）『京都市遺跡地図台帳』【第７版】　京都市文化市民局　2003年

３）釈浄恵「山城名跡巡行志　第五　乙訓郡一」宝暦四年（1754）　『新修京都叢書』第二十二所収　1972年

４）勝持寺所蔵「勝持寺境内図」寛永元年（1624）作製（図版２）
「勝持寺境内図１・２」（図版２・３）については勝持寺住職　中村真容氏が複写・写真撮影を快諾され、今回の調査の参考資料にすることができた。また、「大原野神社絵図」宝暦十三年（1763）作成（図版５）についても、大原野神社祢宜　斎藤重介氏が写真撮影を快諾され、参考資料として掲載することができた。

５）沙門白慧「山州名跡志巻之十　乙訓郡」正徳元年（1711）　『新修京都叢書』第十五所収　1969年
「正法寺・・・（略）・・・件ノ二寺初メ勝持寺四十九ノ院内ニメ属ス彼ノ寺ニ」

６）和田千吉「経塚の位置と其内部の状態」『考古学雑誌　第２巻第８号』　1912年
岩井武峻「山城国乙訓郡大原野村発掘の経筒」『考古学雑誌　第１巻第２号』　1910年

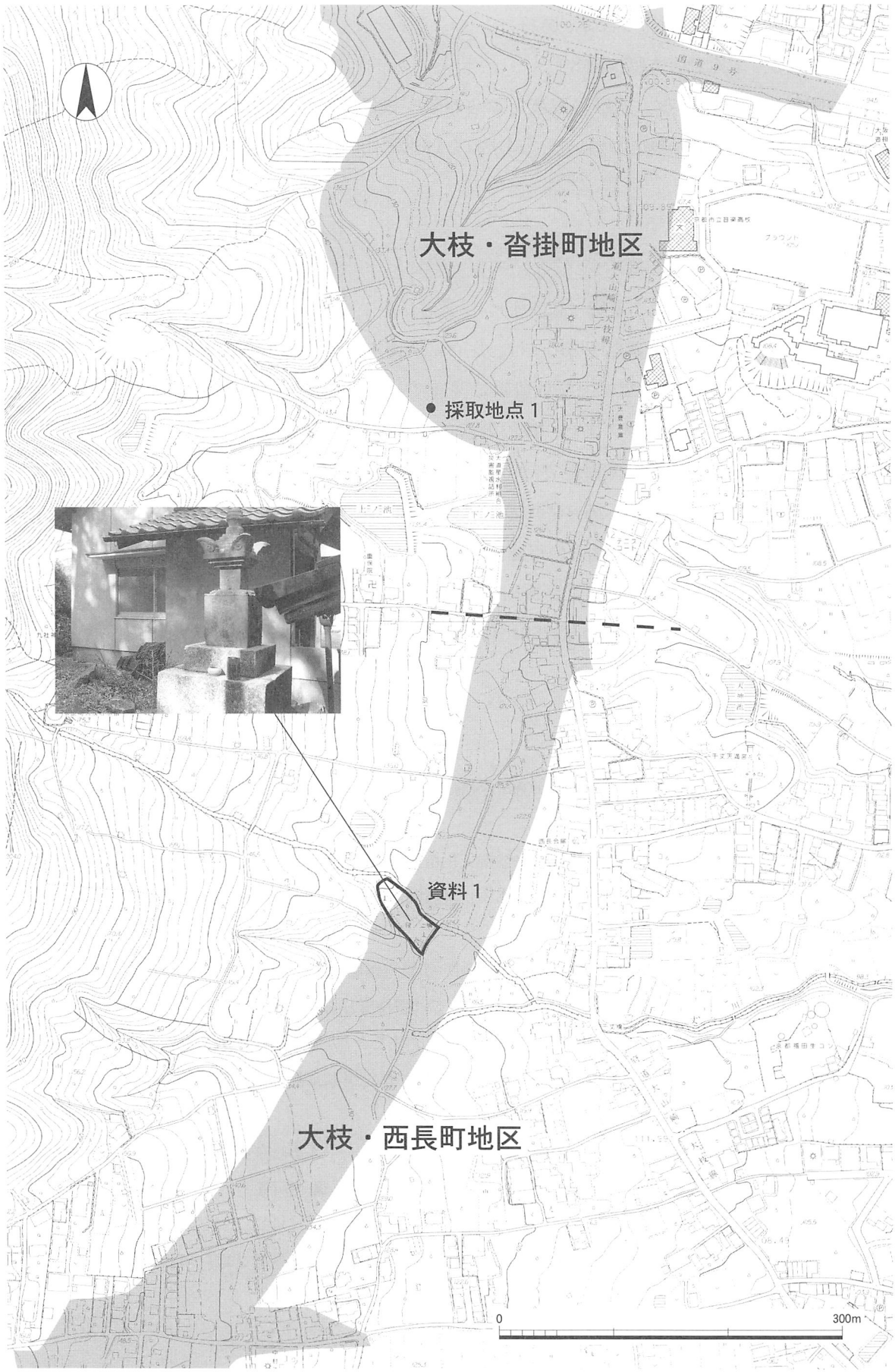


図６　採取地点１及び資料１位置図（１：5,000）

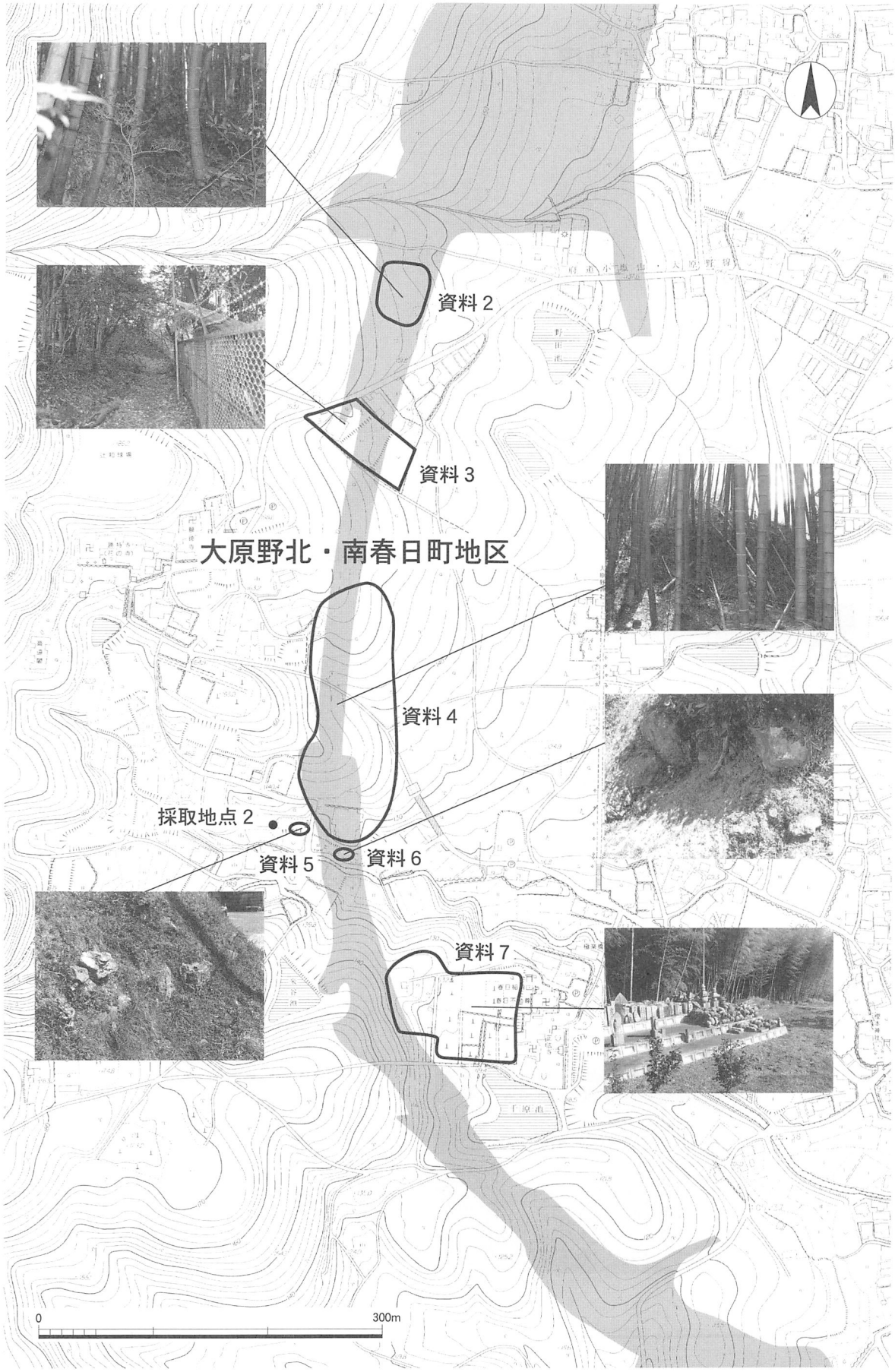


図７　採取地点２及び資料２～７位置図（１：5,000）

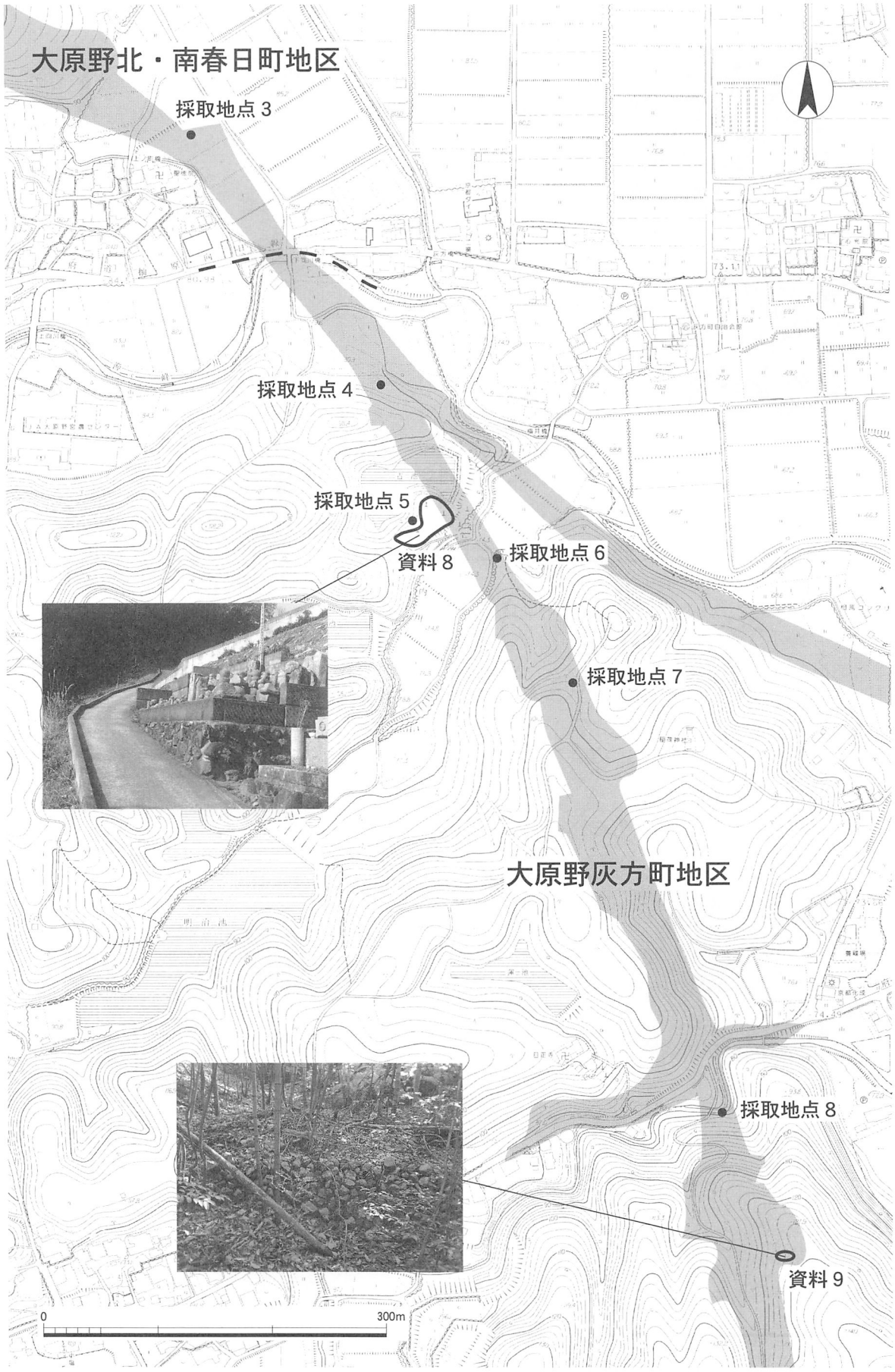


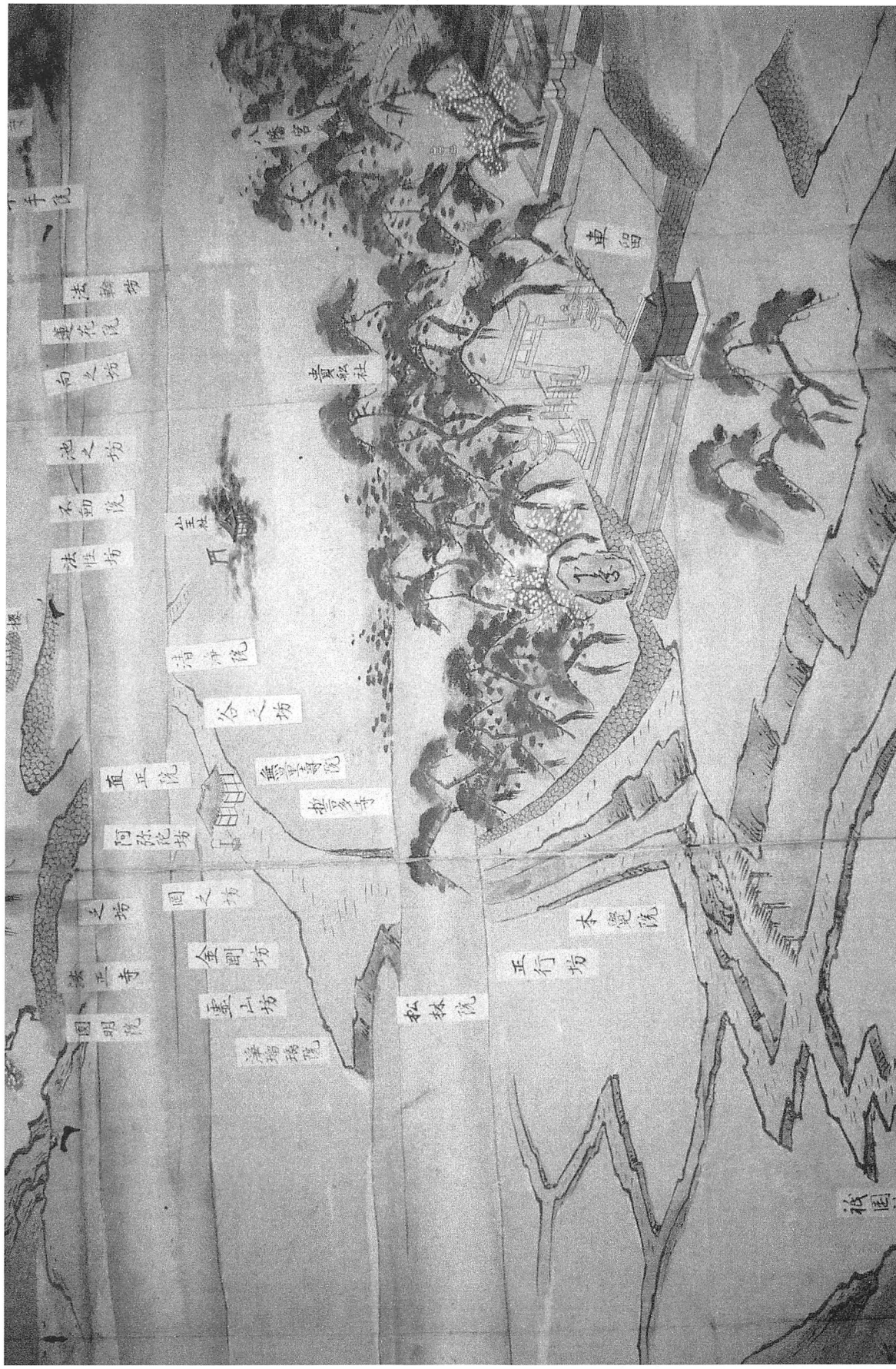
図８　採取地点３～８及び資料８・９位置図（１：5,000）

図　版

1　調査地遠景（南西から）

2　遺物

絵図２　勝持寺境内図２（時期不明）　勝持寺所蔵



絵図３　大原野神社絵図（宝暦十三年）　大原野神社所蔵

京都市内遺跡分布調査報告
平成19年度

発行日　2008年３月31日
発　行　京都市文化市民局
住　所　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
編　集　(財) 京都市埋蔵文化財研究所
住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
〒602-8435　TEL 075-415-0521
http://www.kyoto-arc.or.jp/
印　刷　三星商事印刷株式会社

報 告 書 抄 録

ふりがな	きょうとしないいせきぶんぷちょうさほうこく
書名	京都市内遺跡分布調査報告　平成19年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	津々池惣一・加納敬二
編集機関	財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
所在地	〒602-8435　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　　TEL 075-415-0521
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-0925　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　　TEL 075-222-3108
発行年月日	西暦2008年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
大原野・大枝地域の遺跡（おおはらの・おおえ ちいきの いせき）	京都市西京区大枝・沓掛から大原野灰方町（きょうとし にしきょうく おおえ・くつかけ おおはらのはいがたちょう）	26100				2007/ 2 /13 ～2007/ 3 /16		道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大原野・大枝地域の遺跡		古墳時代～江戸時代	寺跡、屋敷跡、経塚、古墳	土師器、須恵器、焼締陶器、陶磁器、瓦、石製品、銭貨	